

迅速な意思決定を。

社長
interview

株式情報/会社情報 (2018年4月30日現在)

人を活かすリーダーシップで、経営にスピードと高い確実性を。

----- 経営におけるスピードの重要性についてお聞かせください。

外部環境変化の激しい今の時代に、意思決定の速さ、実行の速さはとても大切です。例えば、ノミニ剤のジェネリック対応。経営統合による意思決定の一本化で一気にインドPI社との合併合意に達し、スピーディな実行でコスト競争力をつけ、危機をチャンスに変えることができました。

----- 社長ご自身がどのようなリーダーシップを発揮されましたか？

私は、社員一人ひとりの力を信じています。インドでの合併会社立ち上げの際も、メンバーから様々な視点でリスクを挙げてもらいました。情報化社会の現代は一人の独断よりも、たくさんの視点でより正確な情報を得て、知恵を出しあいリスクの最小化を図ることで確実性を高めることが重要です。もちろんどれだけ精緻化しても確実な予測は難しいのがビジネスです。リスクのあるなかで、最後に判断を下し方向性を示すのが私の仕事です。

----- ご自身はどのようなリーダータイプだと思いますか？

長年創業家によって経営されてきたクミアイ化学工業で、私は新入社員として入社して社長になった第一号です。若い頃は研究開発に携わり、製造部門、営業部門、経営企画とゼネラリスト的に経験を積みました。そのなかで、部門連携、多様な視点の重要性を学びました。先人の知恵を取り入れながら、社員みんなで議論して、自分たちの新たな価値をつくりあげる「温故知新」を大切に思っており、人を活かすことを重要視しています。

----- これからのクミアイ化学についてお聞かせください。

3年後に向けて中期経営計画は予定通りに進んでおり、長期的には研究開発型企業として、世界的にも高い7,000化合物に1つという新剤の商品化割合を維持し続けてまいります。その為に、各研究機関の有機的なつながりを強め、次代を担う若い優秀な人材の採用・育成に努め、開発環境を整えています。また、全社員の安全と健康を守り、それぞれの能力を発揮できる堅固な土台をつくって、地球環境保全に取り組みながら世界の食料問題という大きな課題に挑戦してまいります。

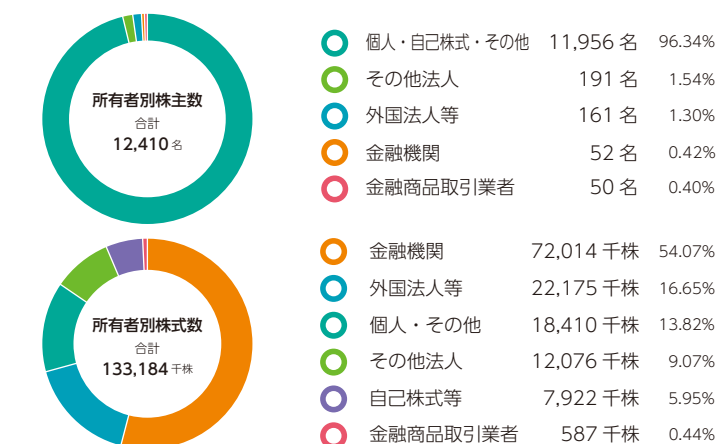
代表取締役 社長

小池 好智

■ 株式の状況

発行可能株式総数	200,000,000 株
発行済株式の総数	133,184,612 株
株主数	12,410 名

■ 株式分布状況



■ 会社概要

会 社 名 : クミアイ化学工業株式会社
設立年月日 : 1949年6月20日
資 本 金 : 4,534百万円
事 業 内 容 : 殺虫剤・殺菌剤・除草剤などの農薬の製造・販売
有機中間体・アミン硬化剤等の化成品の製造・販売
従 業 員 数 : 1,533名(連結)(2017年10月31日現在)
本社所在地 : 〒110-8782 東京都台東区池之端一丁目4番26号

■ 大株主

株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	持株比率(%)
全国農業協同組合連合会	26,527	21.18
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	7,743	6.18
CGML PB CLIENT ACCOUNT / COLLATERAL	6,910	5.52
農林中央金庫	6,117	4.88
スルガ銀行株式会社	4,480	3.58
共栄火災海上保険株式会社	4,381	3.50
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	3,102	2.48
静岡県経済農業協同組合連合会	2,770	2.21
第一生命保険株式会社	2,080	1.66
日本曹達株式会社	1,928	1.54

(注) 1. 持株数は千株未満を切捨てて表示しております。
2. 当社は自己株式7,918,181株を保有しておりますが上記の大株主から除いております。
3. 持株比率は、自己株式(7,918,181株)を控除して計算しております。

株式メモ

事 業 年 度 : 11月1日から翌年10月31日まで
定 時 株 主 総 会 : 毎年1月中
株主名簿管理人 : 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
特別口座管理機関 : 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同連絡先(郵送先) : 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

基 準 日 : 定時株主総会については10月31日、
その他必要があるときは、
あらかじめ公告する一定の日

公 告 の 方 法 : 電子公告により行う
公告掲載URL
<http://www.kumiai-chem.co.jp/>
(但し、電子公告によることができない事故、
その他やむを得ない事由が生じたときには、
日本経済新聞に公告いたします。)

株式に関するお手続き等について

当社株式のお手続き窓口とお問合せ先は次のとおりです。

お手続き窓口及びお問合せ先		
●まだ受け取っておられない配当金の受領に関するお手続き及びそのご照会		
●特別口座に関する振替請求、単元未満株式の買取請求・買増請求、配当金の受領方法の指定、住所等の変更の各お手続き		
●株主名簿にご登録の配当金受取方法に関するご照会		
●株主様宛郵便物等の発送と返戻に関するご照会		
●特別口座に関する各お手続き及びそのご照会		
お手続き窓口	三菱UFJ信託銀行株式会社	全国本支店の窓口
お問合せ先	三菱UFJ信託銀行株式会社	各種お問合せ 0120-232-711
インターネットによるダウンロード http://www.tr.mufig.jp/daikou/		

- お取引の証券会社等に開設されている振替口座に預託されている当社株式に関する単元未満株式買取請求・買増請求、配当金の受領方法の指定、住所等の変更の各お手続き
- 上記の各お手続きに関するご照会

お取引口座を開設されている証券会社等にてお手続き又は
お問合せをお願いします。

IR情報を当社ホームページでご覧になれます。

ホームページアドレスは次のとおりです。
<http://www.kumiai-chem.co.jp/>



クミアイ化学工業株式会社

本社 東京都台東区池之端一丁目4番26号
※この株主通信に関するお問合せは下記までお願いいたします。

総務人事部 03-3822-5036



環境に配慮した
「植物油インキ」を
使用しています。

社長インタビュー

人を活かすリーダーシップで、 経営にスピードと高い確実性を。

特集記事

さらなる成長をめざし、 市場規模の拡大を加速。

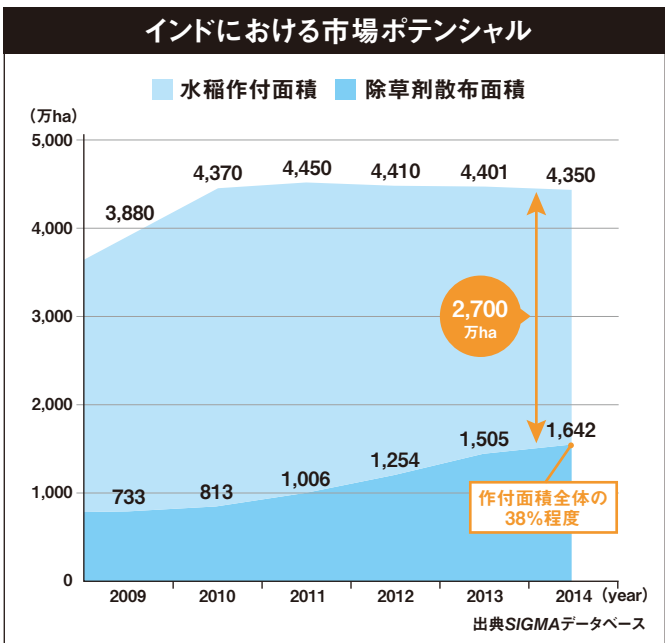
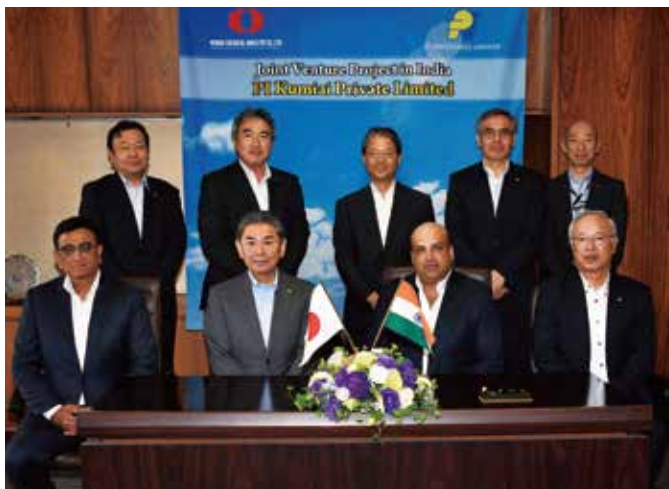
 クミアイ化学工業株式会社

さらなる成長をめざし、市場規模の拡大を加速。

ノミニー剤

スピーディなインド合弁会社設立でジェネリック問題に迅速対応。

主力製品の一つである水稲用除草剤ノミニーは、海外の主要品種であるインディカ米に適用でき、世界で約500万ヘクタールに使用されています。その中で最大の市場であるインドには、まだ除草剤を使用していない水田が2,700万ヘクタールもあり、大きなポテンシャルを有しています。しかし、ノミニー剤は長年販売している除草剤であるため、インドでも低価格のジェネリック品が出回っており、その対策が大きな課題となっていました。



この喫緊の課題に対し、クミアイ化学工業は、イハラケミカル工業との経営統合によって迅速化した経営判断により、経営統合直後の2017年6月にインドのPI社と合弁会社PI Kumiai Private Ltd.を設立。2018年中には現地生産・販売を開始する予定です。現地生産にすることで、輸送コストや関税を削減、ジェネリックに対抗できる価格設定を可能としました。その上でノミニーのブランドネームというアドバンテージを利用した拡大戦略を図ってまいります。

アクシーブ剤

米国市場の拡大、上市国の増加で、グローバル展開を加速。

成長ドライバーであるアクシーブ剤は、主に大豆、小麦向けの畑作用除草剤として、北米やオーストラリアで広く使用されています。アクシーブ剤は幅広い草種に卓効を示すことに加え、世界各地で問題となっている抵抗性雑草にも効果があり、この抵抗性雑草が大きな問題となっている北米での需要が今後さらに増加すると見込まれています。

2016年・2017年の売上高増加の鈍化は、生産体制の拡充時期と穀物価格の下落タイミングが重なり、供給に対して末端での需要が想定よりも伸び悩んだことによる流通在庫の滞留が主な要因です。



混合剤の出荷が好調に推移したことから計画を上回っており、2019年にも新規混合剤の販売が開始される予定であることから、今後のさらなる成長が予想されます。

米国では大豆シェアの拡大、トウモロコシ市場の開拓により、さらなる拡販をめざします。また、昨年にはアルゼンチンでの販売を開始しており、大きな市場に成長すると期待

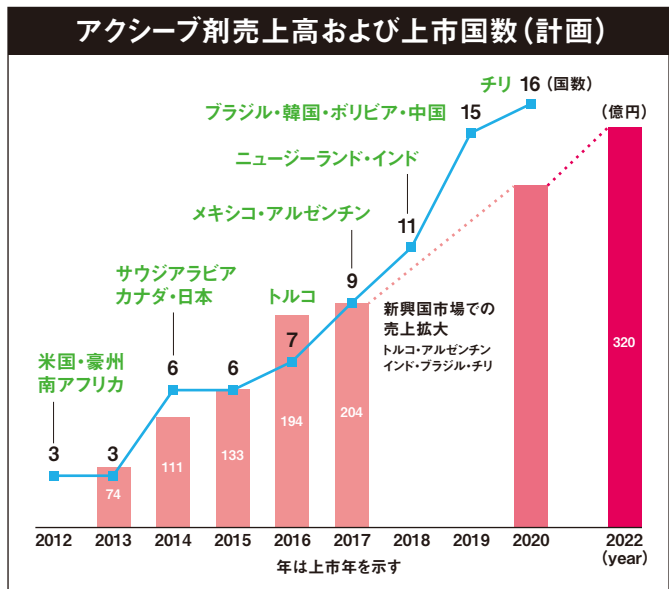


エフィーダ剤

研究力・開発力を活かして、市場価値の高い新剤を次々投入。

新開発の国内向け水稲用除草剤エフィーダは、有効成分として含有する製品の登録を2018年3月及び4月に取得し、2019年から販売を開始します。今後作付面積が拡大すると予想されている飼料米にも使用できる有望な製品であり、安全性が高く、広葉雑草全般と既存剤抵抗性雑草にも効果が高いため、混合剤の母剤としても展開します。さまざまな場面での使用ができますので、これからの大きな成長が期待できる製品です。クミアイ化学工業では、新農薬創製から製品化まで高度に専門化した各研究施設を有機的に結合して、プロセス一貫体制を整えています。新剤の開発には通常10年以上の期間がかかるとも言われていますが、クミアイ化学工業では2010年からの8年間で5原体の登録を取得し、2020年にはさらなる新剤も控えているなど、研究開発型企業として揺るぎない実績を誇っております。

されます。さらに、これから登録が見込まれるブラジル、インドでも抵抗性雑草問題は顕在化してきており、抵抗性雑草対策の特効薬としてグローバルな市場拡大が見込まれています。中期経営計画の中で示した、2022年に売上高320億円の達成に向け海外での販売力を強めてまいります。



エフィーダ混合剤のラインナップ



組織改編に関するお知らせ

組織改編による最適化で業務スピードをアップ、コスト競争力強化へつなげます。

2018年2月8日付で組織改編を行いました。2017年5月の経営統合で一体化させた組織の、さらなる業務効率化と経営戦略推進の一層のスピード化を目的としております。大幅改編となった生産資材本部では、旧イハラケミカル工業の原体製造部門と旧クミアイ化学工業の製剤製造部門を再編成することにより、プロセスのさらなる一体化を進めました。また、研究開発本部についても化学系の3研究所を統合することで、情報・ノウ

■ 取締役及び監査役

代表取締役会長	望月 眞佐志
代表取締役社長	小池 好智
代表取締役専務	海外営業本部長 柿並 宏之
専務取締役	コーポレートガバナンス統括室担当 早川 正人
常務取締役	生産資材本部長 高橋 一
常務取締役	化学品営業本部長 尾嶋 正弘
常務取締役	経営管理本部長 秘書室担当 高木 誠
取締役	国内営業本部長 中島 正成
取締役	研究開発本部長 大川 哲生

ハウの共有化により研究開発体制を強化。経営管理本部は5部門から2部門に集約し大胆なスリム化を図りました。

新体制により、全社をあげての業務効率化によるスピードアップで生産性を向上させ、さらなるコスト競争力強化を図り、高収益体質をめざしてまいります。また今後の組織体制については、部門間に横串を通すような連携の強化を図り、一体となって様々な課題に取り組む土台を固めていきます。

取締役	化学品営業本部化成品部長 井川 照彦
取締役	引屋敷 透
取締役	前田 陽一
社外取締役(独立役員)	佐野 角夫
社外取締役(独立役員)	西尾 忠久
社外取締役(独立役員)	池田 寛二
常勤監査役(独立役員・社外)	泉澤 和行
社外監査役	永島 聡
社外監査役(独立役員)	杉中 洋文
社外監査役(独立役員)	白鳥 三和子

当期経営成績

財務ハイライト(第70期上半期)

経営統合による大幅な売上増。期末目標「売上高950億円」を目指します。

売上高は、経営統合による事業拡大により、541億7千9百万円、前年同期比160億9千2百万円(42.3%)の増加となりました。営業利益は、売上高が増加したことにより47億9千2百万円、前年同期比18億7千7百万円(64.4%)の増加となりました。経常利益は、前第2四半期連結累計期間は持分法適用関連会社であった旧イハラケミカル工業株式会社との経営統合により持分法投資利益が減少したものの、営業利益が増加したことにより56億4百万円、前年同期比10億8千1百万円(23.9%)の増加となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、見積実効税率の変更による法人税等の減少もあり、44億5千4百万円、前年同期比11億8百万円(33.1%)の増加となりました。なお、当第2四半期連結累計期間における海外向け売上高の割合は36.1%となりました。

